

いいの笑み

日中は気候も良く、散歩へ行ったり、室内では身体を動かして遊んだりしています。よく行く散歩のコースにたまる寺があります。そこへ一旦足を踏み入れると街中とは思えないほど静かな場所です。バギーを止め、地面に降り、周囲にある石や落ち葉を見つけて触ろうとしています。静かなので風が吹いて葉っぱが「サササ…」と音を立てて揺れる音や鳥の鳴き声がよく聞こえます。子どもたちは言葉は発しませんが、自然の音を受け入れ、過越し、ゆたたりとした時間の流れを感じられるひとときでした。

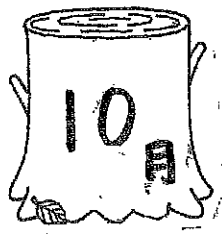
身体を動かすこと part2

いいの笑みの子どもたちは歩いている子どもからハイハイをする子どもまで様々です。バランスを崩してこけたり、少しの段差につまずき倒れてしまったりする事もよくあります。何度もうまくいかない事を繰り返して身体の動かしかたを学んでいきます。しかしこの繰り返しは「不十分なまま大きくなると「転びやすい」「転んだ時に手足をを支えられない」ようになり、しゃちゆうケをする...」さらには「こけた時に手が出ないので大ケガに繋がってしまいます。防ぐ為にはどうすればいいのでしょうか。それはやはり色々な動きを経験する事だと思ひます。危ないからと未然に防ぐこともありますが、防ぎすぎはかえって子どもの自然な動きを妨げてしまいます。また自分で登れない子どもに大人が座らせてしまう等も良くありません。子どもが動きを学んでいながら無理な姿勢をさせる事は身体に負担をかけてしまいます。保育園では戸板のぼり、階段の昇り降り等を積極的に楽しんでいます。最初は斜面なんて登ったことがない。ただ滑り落ちていましたが、少くづつ足でふんばれるようになり、今では自分から登ろうとする子どもが増えました。階段の登り降りも手足をどう動かすのかわからず、保育者に抱っこを求めていますが、体の動かしかたがわかってきて、ゆくり一段一段嬉しそうに登っています。そして一歳前後になると「ゆさぶり遊び」も楽しめます。大人に高い高いやグルリと回されると最初はこわくて身体を硬くしていた子どもたちもクラクラと声をたてて笑うようになります。このゆさぶり遊びでも平行感覚が育ちます。身体を動かすことの大切さを理解して子どもと楽しんでみませんか。



* 体調にもよりますが、室内では床暖房やエアコンで室温を調節しているので、半袖、半ズボンで過ごします。衣装箱の中に常時入れておいてください。

いいの笑み たんぽぽみず クラスだより



公園の落ち葉が赤や黄色、オレンジへと姿を変え、散歩が一段と楽しい季節となりました。日中ぽかぽかとしたお日さまがより温かく感じられ、朝晩の冷え込みに秋の深まりを感じます。衣服をこまめに調整して元気いっぱい、**野外遊びを楽しんでいきたい**と思います。

たんぽぽみず

今年度はコロナにより、少しでも密にならないように考えて保育しています。お天気の良い日には、出来るだけ戸外に出て過ごすようにしています。子どもたちも戸外に出られることとても喜び、ワクワクした気持ちで、中唱子を取りに行きます。友だちとの手つなぎもできるようにになりました。段差を見つけると、嬉しそうにのぼり、そこからのジャンプを繰り返しています。また、室内では、机のぼり、斜面のぼり、高い場所からのジャンプ、棒くぐりなど、身体をいっぱい動かしてあそんでいる今日この頃です。**歩いている歩か？** さて、ご家庭で出かけられる時や、登降園時は、時間かなにかもかもしれませんが、歩くことは大切です。

足は第二の心臓と言われ、歩くことにより、全身の血のめぐりがよくなり、心臓の働きも助け、全身の持力が高まります。

たくさん歩くことで足の指の力や握力も高め、歩く時のバランス、踏ん張りがついて、転びにくくなります。

歩いたり、運動することで足の力、ジャンプやバネ、土踏まぎのアーチなどの機能を使い、足にかかる負担も和らげます。

歩くためには足だけでなく、いろいろな身体の機能や感覚を使い、これらの情報を脳に届けています。歩く運動は、脳も使うことにより、脳機能も発達します。

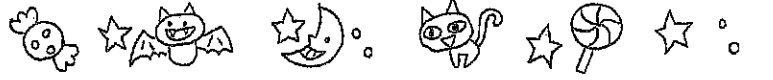
子どもが自己を表現し、自我を育てる場になる。(生理的な心臓や筋肉の運動というだけでなく)

歩くことのメリットを挙げてみました。1歳児にとって散歩は見て、聞いて、触れて、匂いをかいで周りの

世界を豊かに感じ取り、思わぬ声が出たり、物と名前が一致して言葉に結びついたりする大切な体験会です。同じコースを通り、同じ場所に集まり遊び行くことで、いつも出会えるものに对する期待感がふくらみます。小賢れた場所でも安心してあそぶことができ、一度通、ただけでは見つけられなかった、さまざまなものを発見します。大人の目の高さでは見えないものか、子どもの目の高さになると見えてきます。一糸着に感嘆したり、おどろいたりする瞬間を大事にしていきたいものです。登降園時、買いものに行く道中など、一糸着に歩くには、おどろくしい環境だと思ひます。まだまだ甘えた年齢ではありますが、意図的に歩く体験を作ってみては、いかがでしょうか？

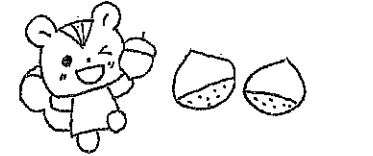
みずぐみ

木の葉も赤や黄色に色づき、本格的に秋の季節となりました。戸外に出ると、肌寒いと感じるようになってきました。子どもたちは寒さに負けず、元気に走り回っています。遊びの中では見立て遊びが増え、「いらっしやいませ〜」とお店の人になりきって展開させています。その中で、一人ひとりの思いが強くなり、時にはぶつかりあい、怒ったり、泣いたりすることもあります。徐々にお互いに思いを言葉で伝えようとする姿になってきています。これからも一人ひとりの思いに寄り添い、見守っていきたいと思います。



散歩 10月も天気の良い日は散歩に出かけました。朝のお集まりの会の時に「今日は〇〇に散歩に行きます」と保育者が言うと、「やったー」と喜んでいきます。最近は一歩通りや京都アスニーの方まで歩いていけるようになってきました。歩いている途中で何か見かけると、道の真ん中へ行ってしまふ子どももいます。保育者が「道の白い線の中に入って」「はしっこやで」の声かけに気づいて、すっと端に寄ります。また、「はたらくくるま」という歌をよく歌うので、歌の中に出てくる車を見つけては、「あ、清掃車」「ショベルカーや」と口ずかせる姿もあります。一人ひとりが様々な発見を楽しみ、時には木の実や葉っぱをおみやげに持って帰ろうとしています。

子ども同士の真似ごと



子どもたちはよく大人の事を見ています。言葉づかいを真似してみたり、行動してみたり、色々です。また、友だち同士でも「〇〇ちゃん(くん)がしているからやってみよう」という気持ちがあり、よく真似をして遊んでいます。子どもの成長には、真似というのはとても大事で、周りの人の動作を見て、真似ようとする事は、周囲を見て、関わろうとしているのです。真似を積み重ねていくことで徐々に社会性を身につけ、子どもの個性や創造性が生まれていくのです。これからもゆくりと成長を見守っていきたいと思います。